


読書推進運動

No.643 ★野間読書推進賞 受賞者の活動報告(5頁)


 公益社団法人
 読書推進運動協議会
 〒101-0051
 東京都千代田区神田神保町1-32
 出版クラブビル6階
 TEL 03(5244)5270
 FAX 03(5244)5271
 発行人 小塚 昌弘
 編集人 片岡 伸子
 定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる



この一年を振りかえる

コロナ禍の図書館

公益社団法人

日本図書館協会

新型コロナウイルス感染症

という禍のなか、図書館が苦慮したことや図書館に集う人たちの変化、そして変わらな
いもの、そのなかから浮かびあ
がってきた図書館の可能性
などを協会から見えた範囲で
報告いたします。

ここでは、主に地方自治体
が設置する公立図書館を中心
に記述させていただきます。

図書館が苦慮したことそれ
は、昨年4月の緊急事態宣言
による休館です。多くの図書
館がサービスの大半を休止せ
ざるを得なくなりました。こ
のような状況は大きな地震な
どの災害を除けば、はじめて
の経験だったのではないで
しょうか。

そして休館から開館に向け
「図書館における新型コロナ

ウイルス感染拡大予防ガイド
ライン」(二度更新)などを
もとに、図書館はサービス実
施に向けた工夫を重ねてきま
した。

そうした工夫のいくつかを
紹介すると、たとえば、子ど
もたちのため「学校がお休み
のみなさんへ」や「おうち
学習を応援! 学びに役立つ」
などのリンク集をインタ
ネット上に設けて家庭学習を
支援するサイトを紹介した
ケースがあります。

また、公衆送信も盛んにな
りました。著作権に関係しな
いその地域の昔話の語りや青
空文庫の作品を朗読して、動
画配信したりする取り組みも
ありました。当協会でも著作
権者から、5つの作品を図書
館より配信する許諾を得たと

ころ、7館から配信実施の報
告がありました。また、電子
書籍の導入を図った図書館も
22館(2020年4月〜10月
『電子図書館・電子書籍貸出
サービス2020』より)と
前年にもまして増えました。

さらにリモート会議システム
を活用し、対面せずに利用者
の質問や課題の解決につなが
る資料の紹介を行った図書館
もありました。

しかし、その一方でリモ
ト会議システムを県内図書館
相互でも、全館で行えない状
況も続いています。

また、新聞や雑誌など多く
の利用者が手に取る資料は一
時利用ができなくなりまし
た。目の前に資料があつては
じめて有効になるサービスが
提供できなくなつたのです。

人が集まることを不安視し
て利用をあきらめてしまう利
用者もいました。

場を提供することが、図書
館に対して近頃強く求められ
ており、利用者同士が交流す
ることも増えてきましたが、
多くが中止や縮小せざるを得
なくなりました。

図書館は、コロナ禍のなか
でも必要な施設です。出版社
からは、書籍出版の際に校正
を行うために図書館は必要な
のだという声を耳にしまし
た。同様のことは研究者から
も聞こえてきます。

図書館はだれもが利用でき
る施設ですが、そこが休館し
てしまうことの悪影響は、こ
れからさまざま現れてくる
と思います。それらを受け止め
つつ、充実したサービスに向
かっていくのが、これからの
図書館の使命ではないでしょ
うか。休館していてもサービ
スは止めない。よせられた意
見に応えるためには、この想
いを共有することが大切で
す。

■全国S L A 地区大会開催へ

感染症の状況に対応しながら
オンライン中心での開催を目指す

公益社団法人 全国学校図書館協議会は夏から秋にかけて、全国9地区で地区大会を開催する。本年は新型コロナウイルス感染症の影響より、各地オンラインを活用しての開催を予定。会場へ足を運ぶづらい人も、地域の学校図書館の実践や課題などを見聞できる。各地区における開催概要は、左記のとおり(5月31日現在)。感染症の状況により開催日・方法などが変更されることもあるので、参加にあたってはかならず、事前の確認をしてほしい。

- 北海道地区 (北海道函館市)
9月3日・4日 一部リモート開催、9月23日～26日 録画配信/参加費=1000円/問合せ先=函館市立赤川中学校 校長 小林 徹也 TEL 0138-46-0486
- 東北地区 (宮城県仙台市)
11月25日・26日 オンライン開催など検討中/参加費=検討中 問合せ先=仙台市立栗生小学校 主幹教諭 文屋 佳一 ts010210@g.sendai-c.ed.jp
- 関東地区 (茨城県)
8月18日～24日 動画配信(18日は研究大会をライブ配信)/参加費=3000円 問合せ先=水戸市立赤塚小学校 教頭 鈴木 久夫 TEL 029-253-4301
- 北信越地区 (富山県富山市)
10月7日・8日 Web 配信検討中/参加費=2500円/問合せ先=富山県立富山いずみ高等学校 教諭 谷川 淳 TEL 076-424-4274
- 東海地区 (岐阜県岐阜市)
8月11日・12日 オンライン開催/参加費=なし/問合せ先=大垣市立西小学校 教諭 兒玉 則子 TEL 0584-78-2339
- 近畿地区 (和歌山県和歌山市)
8月19日 オンライン開催(全体会)、誌上開催(分科会)/参加費=2000円/問合せ先=和歌山市立岡崎小学校 教諭 西本 三夫 TEL 073-471-1750
- 中国地区 (広島県広島市)
11月4日・5日 オンライン開催など検討中/参加費=4000円/問合せ先=広島県立広島皆実高等学校 教諭 白濱 泰史 TEL 082-251-6441
- 四国地区 (徳島県阿波市)
10月29日 オンライン開催など検討中/参加費=1000円/問合せ先=徳島県立板野高等学校 教諭 宇野 知子 TEL 088-672-1101
- 九州地区 (熊本県熊本市)
開催日未定(8月以降予定) オンライン開催など検討中/参加費=検討中/問合せ先=熊本市立出水小学校 教諭 畠村 哲 TEL 096-371-1465

■全国S L A 各賞・コンクール発表

すぐれた絵本と、教育実践の表彰で
学校図書館の充実を支える

公益社団法人 全国学校図書館協議会(全国S L A)は、4月9日(金)に「第26回 日本絵本賞」の最終選考会を開催し、4点の受賞作を決定した。

●第26回日本絵本賞
『こどもたちはまっぴー』 荒井良二/著(亜紀書房)
『このかみなあに?』 トイレットペーパーのはなし
谷内つねお/さく(福音館書店)
『ぼくがふえをふいたら』 阿部海太/作(岩波書店)

●第26回日本絵本賞翻訳絵本賞
『虫ガール』 ほんとうにあつたおはなし
ソフィア・スペンサー/文、マーガレット・マクナ马拉/文、ケラスコエット/絵、福本友美子/訳(岩崎書店)

また、4月19日(月)には「第1回情報活用授業コンクール」の最終審査会を開き、優秀賞11件と情報活用推進校1件の受賞を決めた。

●優秀賞
・杉並区立高井戸東小学校(東京都) 4年国語「世界にほこる和紙、百科事典での調べ方、伝統工芸のよさを伝えよう」
・富岡町立富岡第一小学校(福島県) 4年社会「特色ある地いきと人々のくらし」
・高森町立高森中央小学校(熊本県) 4年国語「新聞を作ろう」
・袖ヶ浦市立昭和小学校(千葉県) 4年総合的な学習の時間ほか「ぼくらオリパラ情報局」知って広めてもり上げよう!」
・京都先端科学大学附属中学校高等学校(京都府) 中学校3年地球学「SDGs『京都学園からカエル世界がカワル』」
・杉並区立宮前中学校(東京都) 1～3年(特別支援学級) 国語ほか「絵本を読んで世界一周の旅」
・杉並区立松溪中学校(東京都) 2年総合的な学習の時間「スキー移動教室なんでも自由研究!!」
・関東学院六浦中学校・高等学校(神奈川県) 中学校2年総合的な学習の時間「地球市民の基礎理解」

●情報活用推進校
・関東学院六浦中学校・高等学校(神奈川県)
このコンクールは、昨年の同会創立70周年を記念して創設。学校図書館が、多様な資料やICTの活用を通じた授業展開を支える教育のインフラとしての機能を発揮し、印刷やデジタル、インターネットによる多様な資料やICTを活用して、児童生徒の主体的・意欲的な学習を支え、授業展開を深め豊かにし、情報活用能力を身につけることをねらいとした授業実践のすそ野を広げることが目的としている。初回である今回は、全国から38件の応募があった。授与式は、6月に「学校図書館記念の日」として学校図書館賞ほかと合同開催の予定だったが、緊急事態宣言延長のため中止となった。

(多文化共生・多文化理解)
・関東学院六浦中学校・高等学校(神奈川県) 中学校3年地球市民講座「地球規模の社会的課題(SDGs 関連課題)と自分」
・渋谷教育学園渋谷中学高等学校(東京都) 高校1年情報「インターネットを活用して情報を探そう」
・関東学院六浦中学校・高等学校(神奈川県) 高校2年聖書「留岡幸助の社会事業」

また、4月19日(月)には「第1回情報活用授業コンクール」の最終審査会を開き、優秀賞11件と情報活用推進校1件の受賞を決めた。

●優秀賞
・杉並区立高井戸東小学校(東京都) 4年国語「世界にほこる和紙、百科事典での調べ方、伝統工芸のよさを伝えよう」
・富岡町立富岡第一小学校(福島県) 4年社会「特色ある地いきと人々のくらし」
・高森町立高森中央小学校(熊本県) 4年国語「新聞を作ろう」
・袖ヶ浦市立昭和小学校(千葉県) 4年総合的な学習の時間ほか「ぼくらオリパラ情報局」知って広めてもり上げよう!」
・京都先端科学大学附属中学校高等学校(京都府) 中学校3年地球学「SDGs『京都学園からカエル世界がカワル』」
・杉並区立宮前中学校(東京都) 1～3年(特別支援学級) 国語ほか「絵本を読んで世界一周の旅」
・杉並区立松溪中学校(東京都) 2年総合的な学習の時間「スキー移動教室なんでも自由研究!!」
・関東学院六浦中学校・高等学校(神奈川県) 中学校2年総合的な学習の時間「地球市民の基礎理解」

●情報活用推進校
・関東学院六浦中学校・高等学校(神奈川県)
このコンクールは、昨年の同会創立70周年を記念して創設。学校図書館が、多様な資料やICTの活用を通じた授業展開を支える教育のインフラとしての機能を発揮し、印刷やデジタル、インターネットによる多様な資料やICTを活用して、児童生徒の主体的・意欲的な学習を支え、授業展開を深め豊かにし、情報活用能力を身につけることをねらいとした授業実践のすそ野を広げることが目的としている。初回である今回は、全国から38件の応募があった。授与式は、6月に「学校図書館記念の日」として学校図書館賞ほかと合同開催の予定だったが、緊急事態宣言延長のため中止となった。

*全国S L A地区大会の最新の概要、日本絵本賞 受賞作詳細、情報活用授業コンクール受賞者詳細は、全国S L Aホームページで確認できる。
全国S L Aホームページ <https://www.j-sla.or.jp/>

■日本児童文芸家協会 各賞発表

子どもの心理を掘りさげ、よりそう 作品を高評価

一般社団法人 日本児童文芸家協会は、「日本児童文芸家協会賞」をはじめとする各賞受賞作品・受賞者を発表した。

●第45回 日本児童文芸家協会賞 『雷のあとに』中山聖子(文研出版)

『恋とポテトと夏休み』『恋とポテトと文化祭』『恋とポテトとクリスマス』神戸遥真(講談社)

●第45回 日本児童文芸家協会賞 特別賞 「はじめての行事絵本」シリーズ

『みつきの雪』真島めいり(講談社)

『保健室経由、かねやま本館。』3巻 松素めぐり(講談社)

●第3回 児童文芸ノンフィクション文学賞

『災害にあつたペットを救え 獣医師チームVMAT』高橋うらら(小峰書店)

●第60回 児童文化功労賞

西川夏代(児童文学作家・詩人)

正岡慧子(絵本・児童文学作家)

矢崎節夫(童謡詩人・童話作家)

協会賞の『雷のあとに』は主人公の少女とその兄の心理を深く掘りさげて文学に昇華されている点が、『恋とポテトと』3連作は連続テレビドラマのように読者をひっぱっていく仕掛けが、特に評価されている受賞。協会賞特別賞は

『はじめての行事絵本』シリーズは、3年にわたり刊行された幼児絵本シリーズ。新人賞には、心地よい文章で心象風景を巧みに描いた『みつきの雪』と、中学生の心にぴたりやりそう『保健室経由、かねやま本館。』が選ばれた。ノンフィクション文学賞の『災害にあつたペットを救え』は、テーマの絞りこみとていねいな取材が評価された。

贈呈式は新型コロナウィルス感染症拡大により、中止となった。また、今回をもって、隔年で設けられていた児童文芸ノンフィクション文学賞・児童文芸幼年文学賞は終了し、次回よりすべてのジャンルを日本児童文芸家協会賞の対象作品とすることも、発表された。

■「上野の森親子ブックフェスタ」

はじめてのチャレンジ、オンライン配信の結果は？

子どもの読書推進会議・日本児童図書出版協会・出版文化産業振興財団(JPIC)の3者が、毎年5月3日(祝)から5日(祝)に東京都台東区・上野公園で開催している読書推進イベント「上野の森親子ブックフェスタ」。

今年度は新型コロナウイルス対応のため、謝恩ブックセールを中止し、千代田区の出版クラブホールに場所を移して3日間計6本の講演会(無観客)をオンラインで配信した。その内容については5月号で報告済みだが、このほどイベントの最終結果がまとまった。

5月3日と6日10時までの配信期間を通じた、6講演会のライブ中継とアーカイブ視聴をあわせた視聴回数は1万4771回。また3月3日から公開した「上野の森親子ブックフェスタ」公

■日書連 春のキャンペーン実施

図書カードプレゼント キャンペーンをくじから一新!

日本書店商業組合連合会(日書連)は、4月20日(火)〜30日(金)「春の読者還元祭2021」を、同会傘下組合書店にて開催した。

この「還元祭」は、従来、春と秋に行ってきた「書店くじ」に替わるものとして、本年はじめて行われた。実施書店で図書・雑誌を購入した読者に、伊藤若冲の名画しおりを進呈、読者はしおりのQRコードから応募サイトにアクセス

スし、必要事項を記載して応募する。抽選で3000名に、「図書カードネットギフト」1000円分が当たる。「図書カードネットギフト」は、スマートフォンで使える図書カード。応募から受け取り、使用までスマートフォンで完結できる。日本書店商業組合連合会は、「従来の書店くじから実施書店数も増えて、しおりのデザインと



あんびるやすこさんの講演会はチャットの参加者も多数!

にも企画が支持されたのではないかと、反響と手応えを感じたという。なお、「秋の読者還元祭2021」は10月下旬に実施予定。実施時期など概要、および実施書店は決まりしだい、日書連ホームページで確認できる。

●日本書店商業組合連合会 ホームページ

https://www.n-shoten.jp/



実施書店店頭のパスター

■日本児童文学者協会 各賞発表

意欲的なテーマ選びとスタイルで 子どもたちにつながる作品を

一般社団法人 日本児童文学者協会は、「日本児童文学者協会賞」をはじめとする各賞の受賞者を発表した。

今年の受賞者は以下のとおり。

●第61回 日本児童文学者協会賞

『拝啓バンクスノットデッドさま』
石川宏千花（くもん出版）

『万葉と令和をつなぐアキアカネ』
山口進（岩崎書店）

●第54回 日本児童文学者協会賞

新人賞

『ハジメテヒラク』
こまつあやこ（講談社）

●第25回 三越左千夫少年詩賞

『うたうかたつむり』
野田沙織（四季の森社）

今年も各賞選考会は、Web会議やメールの交換で議論し、受賞者を決定した。

協会賞の『拝啓バンクスノットデッドさま』は、児童文学にはめざらしく、バンクロックをテーマにした作品。意外なテーマの選び方と、説明しすぎずに読者の想像にゆだねる巧みな構成が、受賞に

つながった。また、『万葉と令和をつなぐアキアカネ』は、絶滅の危機に瀕しているアキアカネ（赤トンボ）と米作りの関係を説くノンフィクション。物語性が強く、読者の印象に残る作品として高く評価された。

『ハジメテヒラク』は、中学校の生け花部が舞台。主人公の脳内実況でストーリーが進むスタイルの新鮮さと、生け花という静の行動でありながら、バトルものように終盤でたたみかける手腕が、選考委員の大きな支持を得た。

三越左千夫少年詩賞は、作品の新鮮さと切実さ、透明感、そして少し淋しいユーモアが高く評価された『うたうかたつむり』。作者の野田沙織さんは、図書館司書として勤務しながら、児童文学雑誌などに作品を発表しつづけて、受賞作をはじめの詩集。残念なこと

に、昨夏夏に急逝されている。本年も、贈呈式は中止となっている。

■東京子ども図書館 TCLブックレット最新刊

日米の児童図書館サービス萌芽期を支えた人たちを紹介

公益財団法人 東京子ども図書館は、TCLブックレット「こどもとしゃかん」評論シリーズ『児童図書館の先駆者たち—アメリカ・日本—』を刊行した。

TCLブックレットは、同館の機関誌『こどもとしゃかん』で掲載されてきた記事より、再録の希望があったものや、いまだからこそ光をあてたい話題を収録している。今回は、1998年に発表し

た『アメリカ児童図書館の先達』『日本児童図書館の黎明期』の2本を収めた。この2本は、東京子ども図書館が職員研修の一端として、日米の文献資料を読みあつた成果を評論として発表したもの。児童図書館サービスの実史入門として、これまでにも同館の講座・研修プログラムでたびたび取りあげてきたという。

■世界の子どもの本展 開催者募集

各国のおすすめ児童書で 世界旅行を楽しみませんか？

現在、一般社団法人 日本国際児童図書評議会（JBBY）では、巡回展「世界の子どもの本展—国際アンデルセン賞とIBBYオナリス2020—」の開催者を募集している。

IBBYオナリスとは、国際児童図書評議会（IBBY）が隔年で発表する児童図書リスト。IBBY各国支部より、「世界の子どもの本展」に読んでほしい」と推



本文に登場する人たちの似顔絵が配置された表紙

ブックレット巻末に用意されている「関連文献リスト」には、書誌情報だけでなく、簡単な内容紹介も記載されており、さらに知識を深めたい人も満足できる。定価（税込）は880円。購入方法は、同館のホームページで確認できる。

●東京子ども図書館ホームページ <https://www.tcl.or.jp/>

リン・ウッドソンさん（アメリカ）と画家賞のアルベルティーンさん（スイス）の作品を加えた約200冊の展示図書と1冊ごとのキャプション、解説パネル、閲覧用の日本語版カタログなどをセットにして、図書館や美術館のほか、学校や有志の個人・グループなど、展示希望者に貸し出す。

巡回展の期間は今年9月より2023年3月まで。費用や貸出条件、これまでの巡回展の様子など詳細は、JBBYホームページで確認できる。

●JBBYホームページ <https://ibby.org/>

■野間読書推進賞受賞者の活動報告

コロナ禍の中で迎えた「のぞみ文庫」の50周年

のぞみ文庫(宮城県仙台市) 川端 英子

★「とよたかずひさんの集い」と50年誌づくり

東日本大震災後は月一回の「のぞみ文庫」も、2020年12月で満50年です。2017年に読書推進賞をいただいたとき、記念行事には、仙台市出身のとよたかずひさんに、来てくださいとお願ひし、快諾していただきました。

12月18日(金)に、のぞみ文庫のクリスマスおはなし会にご参加、19日(土)は、子どもを中心に100人ぐらい、ランチ付きの「とよたさんの絵本と紙芝居を楽しむ集い」をする、



マスクをしていても笑顔がいっぱいの祝う会
サンタの帽子をかぶっているのが川端英子さん

という計画です。

のぞみ文庫では、毎年7月語り手たちの会・みやぎの竹丸富子さんのお話で、「アジアの子どもたちへ送る絵本の現地語シール貼り」をやっていますが、2018年には来庫者が増え、貸出・返却だけで大忙しの私を見かねた竹丸さんが、「だいちゃん文庫」の佐々木博美さんを誘い9月から正式に世話人になり、50周年も一緒にやってくれることになりました。ふたりで昔の世話人にも連絡をしてくれ、新潟、岡山、大分市から来てくださるようになりました。

2020年1月、50年誌は小さな手づくりにしたと思います、コピー紙に印刷した枠のなかに「文庫で借りておもしろかったり、好きだった本の名前を書いて。小さい人は、絵でもいいし、ママが代わって書いてもいいし、4月末までお願い」という手紙とともに、文庫に来る人、来ていた人に依頼、それを集めて和綴じにすることにしました。博美さんが、表紙は折

り染めにしたらと提案、竹丸さんが障子紙と染料を提供してくれることになりました。昔、仙台の文庫では、折り染めが盛んですが、染料が入り困難になり、最近してないので、文庫の「おはなし会勉強会」の大人に呼びかけて、折り染め講習兼作成会を4回実施、110冊分220枚を染めあげました。

★コロナの広がりでどうなった？
「とよたさんの集い」の準備も進行。博美さんちの大喜ぶんの「おはようシアター」から「でんしゃにのつて」「アリス館」の寸劇をした。いの声もあり、2020年2月、文庫の日に3人で会場の下見をし、プログラムとランチの相談も。

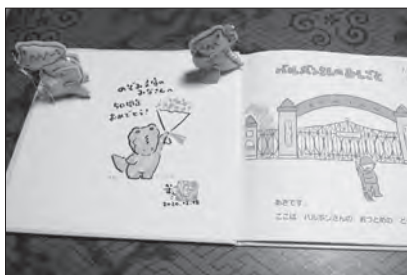
ところが、2月29日、仙台にコロナ感染者が出て、増えていく気配。50年誌の原稿締め切りを5月末にのぼしましたが、私は足首を捻挫し、呼びかけも頓挫。仕方がない、集まった分で作ることにし、竹丸・博美コンビで印刷、新聞に出していた綴じ方を3人で試作、そのコピーと冊子の材料を勉強会の

みんなにわけ、家で綴じてもらって、10月に110冊が揃いました。

3月の文庫は、大震災を記念して例年桜餅を作りますが、電話をかけた中止に(結局5人来庫)。4月5月は消毒を徹底し、貸出と返却だけでしたが3人、8人と来庫。6月は感染者がなかったで、文庫の外ではなし会をやつたら蚊に刺されてたいへん。7月は折り紙と読みきかせ。さて、記念行事はできるか？

8月時点判断に迷い、とよたさんと頻繁に連絡を取りあいますが、感染は収まりません。11月10日、3人で相談し子ども連れの大会集は危険と判断、「とよたさんの集い」は中止と決定。その代わり「バルボンさんのおしごと」(アリス館)にサインをいただいで、子どもたちにプレゼントしたらとなり、即、とよたさんにお電話

とよたさんはご承諾くださり、なんと20日後には「のぞみ文庫のみなさんへ50周年おめでとう！」とバルボンさんが花束を掲げているサイン本50冊が届きました！
博美さんがバルボンさんととよたさんのマスクを100個以上作り、勉強会の向所さんちのもつちやんが働く「はびかむ」のクッキーを注文。元世話人とご招待予



とよたかずひさんから贈られたサイン本と手づくりのバルボンさん・さくらさん

定者に手分けしてお詫びの手紙と50年誌を送り、のぞみ文庫のみなには、19日は中止、18日が祝う会です、とチラシを配る。

当日42人来庫。多くの方から寄せられたお祝いの品々に囲まれて、みんなマスクのまま定番の絵本『クリスマス12のち』を絵カードを持って歌い読み。サンタ帽の世話人3人が50年誌も入れてプレゼントを配り、めでたく終了。漏れた人へのプレゼント配りやご挨拶は年を越しても続きました。それにしても、のぞみ文庫はどんなに大勢の人たちに支えられてきたか、感謝とともに、子どもが読みたい本をいつでも読める図書館を地域につくることが、文庫の責任だと思えば、体力に反してますます強くなっています。

*文中の「おはようシアター」は、仙台市を拠点として、子ども向け演劇プログラムを創造、実施しているグループ

優良読書グループの歩み (6)

2020年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。

(順不同)

おはなし会ぶなの実

代表者 登坂ひかる

山形県西村山郡朝日町

〈推薦〉
山形県読書推進運動協議会

山形県朝日町で1974年、小さな公民館文庫から読み聞かせ会がはじまりました。当時、館長の佐直信雄先生は「幼少期にお母さんの読み聞かせを通して読書のおもしろさを感じさせることが、子どもの人格形成にいかにも大切なことか」と力説され、お母さんたちによる読み聞かせ会をはじめました。お母さんたちの努力は功を奏し、やがて土曜日の午後になると、小さな公民館にはあふれんばかりの親子が集まりました。

1992年、公民館文庫の閉鎖にもとない、ボランティアサークル「おはなし会ぶなの実」として自立しました。「ぶなの実」の名前は、心豊かに育ってほしいとい

う母親たちの願いをマザーツリーと呼ばれるぶなの木に託してつけられました。メンバーも積極的に研修会などに参加し、おはなし会も読み聞かせのほかに、パネルシアター、エプロンシアター、人形劇や影絵、ダンスなども取り入れ、バラエティ豊かになり、保育園や小学校、公民館へと活動の場を広げていきました。

2003年の国民文化祭では、「人形劇フェスティバルin朝日町」が開催され、全国から参加した人形劇団の出演に大いに盛り上がり、私たちも地元で伝わるおはなしをもとに、創作ミュージカル人形劇『浮島物語』を上演し、大きな自信と結束を感しました。

その後、メンバーも入れ替わり、現在は8名で、町立図書館や子育て支援センターの月例おはなし会、小学校の朝の読み聞かせ、保育園やイベントでの人形劇公演などを行っています。絵本の選本からポスターづくり、内容にあわせて人形や小道具の製作、そして練

習と、かなりたいへんときもありません。しかし、みんなで補いあい、「無理せず楽しく」をモットーに活動しています。メンバーの子どもたちも「ぶなの実キッズ」として出演することもあり、頼もしいかぎりです。

2019年に、おはなし会ぶなの実には創設45周年を迎えることができました。こうして長い間活動してこれたのは、先輩方の努力の賜物、そして家族の協力やまわりの関係機関の支援のおかげと感謝しています。

たくさん笑顔が増えることを願い、これからもたくさんの子どもたちに絵本の楽しさを届けていきたいと思っています。

穂高絵本とお話の会

代表者 竹内 悦子

長野県安曇野市

〈推薦〉
長野県読書推進運動協議会

私たちの会の発足はもう30年以上前、町の講座がきっかけでした。自分の子どもに絵本やおはなしの楽しみをと、子ども連れて受講終了後、有志で「穂高絵本とお話の会」と名づけ、はじまりました。

司書と月一回の「お話図書館」を開催、また、1年に一回「お話散歩道」を計画、人形劇、影絵など大人数で楽しめるものを製作、上映してきました。でも子どもが成長し、私たちが語りの世界にもひかれていたこともあり、「散歩道」は止め、「お話図書館」を中心に、東京の団体を招いての「お話勉強会」、小澤俊夫先生の昔話大学受講と、語りの世界、昔話の奥深さにふれていきました。また、図書館での各種研修会、絵本作家講演会、各地の絵本館への訪問と、楽しみながら勉強していきました。

そのころ、保育園の依頼で月一回、ミニおはなし会がはじまり、地元保育園中心に8園で、絵本、素話、エプロンシアターなどを織りまぜています。小学校の朝読書時の読み聞かせ、また、読書週間中には、素話を中心にしたおはなし会をしています。このときははじめに「お話ロウソク」に火を灯し、終わりに火を吹き消します。消えるとき、心の中で願いごとを唱えるとき、いつかなうと言われたい、誕生日の子に消してもらいます。子どもたちがおはなしや絵本のなかの主人公になり、笑ったり悔がたりしているのを感じると、私たちの力がパワーをもらいます。

先日、「怖い話をとの依頼があり、小学校のキャンプで、『黄色いリボン』『うたうしやれこうべ』を語ったところ、やんちゃな子どもたちが静まりかえり、心配していた先生方も一安心？ したそうです。また、大人にもおはなしの世界をと、年一回「お月見お話会」を開催しています。例会は月2回、絵本やおはなしなどの紹介、新会員を含めた勉強会では長年の会員でも「目から鱗」のことだらけです。

これからは、子どもたちからパワーをもらいながら、少しでも長く続けていきたいと、受賞を機に、みんなで思いを新たにしています。



子どもたちの反応がおはなし会の力に!

草津おはなし研究会

代表者 藤内 郁子
滋賀県草津市
滋賀県立図書館
〈推薦〉

今年、草津おはなし研究会にとつて「創立40周年」記念の年です。まだ草津に市立図書館がなかったころ、公民館の小さな図書室でこの会は生まれました。熱心な市役所の方に背中を押してもらい、10人に満たないメンバーが、「子どもと本の架け橋に」をモットーに立ちあげました。市立図書館ができてからは、子どもたちのために毎月「おはなし会」が開かれるようになり、司書の方を手伝いながら子どもたちと楽しい時間を持つようになりました。年6回開かれる「図書館公開講座」ブックトークの会も、司書の方とともに学べる貴重な場となっています。

り要望にそつたものになるよう工夫を続けています。

現在、メンバーは20数名。40代から70代までの男女がいっきいきと活動しております。毎週開かれる例会では、よりよいおはなし会を行うために試演をし、メンバーからいろいろな意見をもらうようにしています。自分たちにとつて一杯のこをすることが、相手への誠実さと思つていきます。そのためには、年齢や経験などとは関係なく、個人の意見をはっきり出さうことが大切、と共通認識しています。それが、おのおの大切な学びに役立っています。

私の忘れられないエピソードのひとつ紹介いたします。保育園の



子どもたちとの楽しい時間

先生向けの講習会を開き、後片づけをしていたことです。ひとりの若い保育士さんがそばに連れておつしやいました。

「私、子どもが嫌いになつてしまつて、この仕事辞めようと思つていました。でも今日の講習を受けて、やつぱりもう少しやつてみようと思ひました」

うれしいことばでした。これからも、本を通して、たくさんの人たちと心豊かになる時間を共有していきたいと思つていきます。

倉敷ストーリーテリングを楽しむ会

代表者 足立早百合
岡山県倉敷市
岡山県読書推進運動協議会
〈推薦〉

1995年、倉敷市内在任の語り手有志により結成しました。以後月1回、語りを聞きあつて勉強会を行っています。また、年に1〜2回は講師を招いての勉強会を行います。岡山県立図書館主催のスキルアップ講座にも積極的に参加して、研鑽を積んでいます。この会には長く在籍する会員が多く、家庭の事情などで会を離れた会員とも交流が続ぎ、新しい会員とも気

マスク越しでも、おはなしの熱力は変わらない



さくに声を掛けあうよい雰囲気、25年にわたつて活動を継続・継承しています。

2002年には、福祉文化振興財団の助成を受け「おはなしボランティア養成講座」を開催しました。これは広く市民に向け、子どもの文学に求められるもの、おはなしを通して子どもたちに伝えたいことを考えあう講座となりました。

おもな活動は、倉敷市立図書館が定期的に開催するストーリーテリングの会や、倉敷市内小学校の夏休みおはなし会で、会員が交代で昔話を中心に語っています。図書館では、おはなしを聞くとスタンプが集まるカードを提案するな

ど、ストーリーテリングの普及活動にも工夫を凝らしています。また、年に1回「大人のためのストーリーテリング」の会を、図書館と協働で開催し、ほかの地域で活動している語り手と、交流を深めています。

個々の活動では、幼稚園や保育園、小学校、児童館、放課後児童クラブなどからの要望で、おはなしを語り、子どもたちと一緒に楽しんでいきます。子どもたちの読書活動を熱心に支えている先生方の推奨をうけ、小学校での活動の場は広がりがつあります。

コロナ禍の2020年度は、椅子を離して座り、聞く方も語る方もマスクをつけてのおはなし会・例会となり、戸惑いがありました。しかし、世界中で語り継がれてきた昔話は、心の奥に呼びかけるものをもつていと実感し、おはなしの力を再認識しました。

地域で、図書館で、子どもともにおはなしの世界を楽しみむことは、子どもの心を耕すことであると同時に、語り手の心も耕されます。柔らかな心で真摯におはなしと向きあい、会員それぞれの持ち味を生かして楽しみながら、自分のペースで成長していけるような会でありたいと考えています。

■学校図書館を考える全国連絡会 集会

自宅からでも参加できる！
オンライン配信も実施

全国各地で学校図書館の整備と充実を願う活動を推進している個人・団体の集まり『学校図書館を考える全国連絡会』は、東京都中央区の本郷図書館協会の研修室で、7月10日(土)に「第24回集会 ひらこう！学校図書館」を開催する。

この集会は毎年開催されているが、昨年は新型コロナウイルスの感染拡大のために中止となっており、2年ぶりの開催となる。

問題提起は堀岡秀清さん(図書館年鑑 編集委員)の『図書館年鑑』の編集で感じたことと最近の行政文書を読んで。記念講演は片岡則夫さん(清教学園中・高等学校 探究科教諭)の「学校図書館はなにを目指すか…自由な学びと読書を支えるインフラ」が予定されている。

同会の会員以外でも参加可能だが、本年は新型コロナウイルス感染



集会案内のチラシ

■親地連 全国交流集会 開催へむけて

オンラインと少人数参加型の
2日開催でつながりあう！

親子読書地域文庫全国連絡会(親地連)は、今年10月に「第23回 全国交流集会」すべての子どもに読書のよろこびを語りあいを予定している。

隔年で開催される親地連の全国交流集会では、2日にわたり、全国から集まった会員が研修と交流を深める。今回は、新型コロナウイルス感染症の状況見通しが不透



ホームページに掲載されている現時点の概要

明ななか、オンライン集会と小規模の会場参加型集会の2本立てで計画を進めている。

Zoomによるオンライン集会は、10月2日(土)の午後開催(予定)。山極壽一さん(京都大学前総長の記念講演と、親地連前代表の広瀬恒子さんからのメッセージなどが予定されている。

10月9日(土)(予定)には、話題提供者を招いての分科会と情報交

●親地連ホームページ
<https://www.oyairen.info/>

事務局報告(5月)

- ☆4月23日〜5月12日「第63回こども読書週間」
- ・3日〜5日「上野の森 親子ブックフェスタ2021」オンライン開催
- 出版クラブホルトリより、講演会を1日2本、計6本中継・配信
- ☆7日「機関紙『読書推進運動』642号 入稿」
- ☆10日「機関紙『読書推進運動』642号 責了」
- ☆14日「機関紙『読書推進運動』642号 出来」
- ☆14日「第51回 野間読書推進賞 受賞候補者推薦依頼を送付」
- ☆20日「2021年度 第1回理事会を開催」
- ☆20日「2020年度 事業報告書案」および「2020年度 決算報告書案」
- ☆20日「新役員候補者」
- ☆20日「2021年度 定時総会開催」などの議題を承認
- ・20日「子どもの読書推進会議「2020年度 収支決算書」監査を会員社へ送付」
- ・26日「上野の森 親子ブックフェスタ2021」運営委員会に出席
- ☆27日「各道府県読書推進協会の第63回こどもの読書週間 行事報告を依頼」
- ☆27日「各道府県読書推進協会の「2021敬老の日読書のすすめ」掲載書目推薦を依頼

●編集部 & 事務局の
ひとこと

●行儀が悪いと思いつつ、お風呂で本を読む習慣から抜け出せません。水没事故の可能性があるので、持ち込むのは所蔵の文庫本・新書のみ。超長風呂を避けるため、原則、エッセイや短編小説集、長編は既読のものとしています。

●先日持ち込んだのは、映画をモチーフにした5つの短編が収まっている、金城一紀さんの『映画篇』(集英社文庫)。ラストの『愛の泉』が大好きで、これだけ読み返すのが常ですが、今回はなんとなく通読。1作目のつらい現実からの救いを求めて映画を見る少年たちの姿にいつになく心を揺さぶられ、2作目のヒロインがブルース・リーの怪鳥音に後押しされて勇気を振りしぼる姿には、涙が出そうになりました。

●『映画篇』の登場人物はみな、だれかと一緒に映画を見て、語り、思いと時間を共有することで希望を抱き、新たな一歩を踏みだします。物語と対話で自分の世界を変えていく、力強さと美しさがまぶしく、つい夢中になっていました。気軽に友人たちと語りあうことがむずかしいいまだから、より、心に刺さったのかもかもしれません。

●川端英子さんの『のぞみ文庫』50周年記念、準備を手伝った仲間たち、当日駆けつけた子どもたちからも、同じまぶしきを感じました。コロナにより、さらに露わになった社会の分断を乗り越えるために、図書館、書店、文庫など物語と他者と出合い結びつく場所の必要性は、ますます高まっています。(伸)